

岩手民俗芸能 パフォーマンスとレクチャー ～3.11 後の復興の原動力となる郷土の芸能～

国際交流基金北京日本文化センターは、在中国日本大使館が実施する「日中交流集中月間」のイベント第二弾として、日本の東北地方に伝わる民俗芸能をお届けします！

2011年3月11日の東日本大震災以降、日本では民俗芸能の文化的、芸術的価値に大きな注目が集まっています。今回は岩手県に古くから伝わる「鹿踊」、「虎舞」、「鬼剣舞」をご覧いただき、東北各地で民俗芸能がどのように被災地の人々の復興へ向かう原動力となっているのかをご紹介します。そこに、伝統文化の継承を考えるうえで重要なメッセージが込められているはずです。民俗芸能は観る人も踊る人も元気にするといわれますので、みなさんもぜひその力を味わってください。

■公演日時： 2015年10月17日(土) 19:00～
2015年10月18日(日) 14:00～

■上演時間： 120分(休憩なし)

■公演会場： 中華世紀壇当代芸術館劇場（海淀区復興路甲9号）

■入場料： 無料(要申し込み)

※申込方法については「新浪微博@北京日本文化中心」及び「微信 jfbeijing」でお知らせします。

■主催： 国際交流基金

■共催： 在中国日本国大使館 中国人民対外友好協会

■協力： 全日本郷土芸能協会

日中交流集中月間公式サイト：<http://www.cj-jizhong.com>

【講師紹介】

久保田 裕道（講演、執筆）

独)国立文化財機構 東京文化財研究所 無形文化遺産部 無形民俗文化財研究室長

1966年、千葉県出身。國學院大學大学院博士課程後期文学研究科修了。博士(文学)。大学講師などを経て、現在、独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所・無形文化遺産部・無形民俗文化財研究室として勤務。民俗芸能学会理事、儀礼文化学会幹事。民俗芸能を軸とした各地の文化財調査・研究・推進に努め、東日本大震災後は、震災地域を主とした東北地方沿岸部の文化財調査・研究も実施。主な著書：「神楽の芸能民俗的研究」(おうふう)、「目からウロコの日本の神様—『古事記』から台所の神さままで」(PHP エディターズグループ)、「日本の神さま」おもしろ小事典」(PHP 研究書)

【団体紹介】

金津流野手崎獅子躍

団体名：金津流野手崎獅子躍保存会（岩手県奥州市江刺区梁川）

2012年4月より梁川金津流鹿踊から現名称へ改称。鹿踊は鹿をモチーフにしており、かつて鹿などの野獣を狩猟して生活していた東北地方の先人たちの食物への感謝や供養が踊りの元になったといわれている。踊り手は8人一組で、本物の鹿角をつけた頭をかぶり、腰に太鼓、背中にはササラという3mほどの竹を背負い、歌をうたいながら激しく踊る。主に、お盆に集落の家々を廻って亡くなった人の供養や、秋祭りで豊作を祝って踊られることが多い。「金津流」という流派では鹿踊を「獅子躍」と書き、獅子のように勇壮に、かつ「礼に始まり礼に終わる」儀礼を最も大事にする。躍りのみならず、歌声や装束に至るまで寸分乱れない芸態が特徴的であり、中でも野手崎獅子躍は最も厳格な師弟関係を構築し、一糸乱れぬ演技を見せる。



吉里吉里虎舞

団体名：吉里吉里虎舞講中（岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里）

「虎は一日に千里行って千里帰る」という諺から、漁師の無事生還を願う虎を模した舞が岩手県沿岸部の漁民に広がり伝承されている。中でも吉里吉里虎舞は、当地の豪商前川家が、近松門左衛門作・浄瑠璃「国性爺合戦」に感銘を受けて大槌に持ち帰り、赤土で虎頭を作って舞踊化したもので、歌舞伎の隈取をした和藤内による虎退治が見ものである。祭りでは、虎舞をしながら家々を廻る「門打ち」が行われ、虎の荒々しさと威厳で悪魔退散などを願う。毎年8月25日前後に開催される天照御祖神社例大祭には虎舞をはじめ鹿子踊や太神楽などを多種多様の芸能が奉納されていたが、大槌町は東日本大震災の津波及び火災で壊滅的被害を受けた震災後も被災地を神輿とともに渡御し、多くの団体の活動再開の場となった。また、神輿と各種芸能、住民たちが一緒になって、海に向かっての供養の清めも震災後から行っている。



二子鬼剣舞

団体名：二子鬼剣舞保存会（岩手県北上市二子町）

鬼剣舞は北上市を代表する郷土芸能で、鬼のような面（＝仏）を着け、お囃子の念仏にあわせ、刀を振りかざし大地を踏み、跳躍を繰り返す勇壮な踊りである。主にお盆の供養や悪霊退散、衆生済度を願って踊られる。また「三人加護」のような儀礼的な演目、「狐剣舞」という不思議な由来を持つ演目、宙返りなどアクロバティックな曲芸も多数伝えており根強いファンが多い。東日本大震災発災直後、被災地にいち早く駆けつけ、鎮魂供養を行った団体でもある。

